

平成 27 年 1 月 1 日

彦根市子ども議会会議録総目次

11月7日（土）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（1番 谷口純大さん（城西小学校）、2番 藤岡恭演さん（城陽小学校）、3番 高谷英里菜さん（佐和山小学校）、4番 川端智大さん（高宮小学校））	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
1番 谷口純大さん（城西小学校） 質問	4
さまざまな病気に対応してくれる病院を	4
川嶋病院事務局長 答弁	4
2番 藤岡恭演さん（城陽小学校） 質問	5
彦根城を世界遺産にするために	5
山根副市長 答弁	5
3番 高谷英里菜さん（佐和山小学校） 質問	6
彦根市の観光客を増やすために	6
馬場文化財部長 答弁	6
4番 川端智大さん（高宮小学校） 質問	7
彦根市をもっと多くの人に知ってもらうためには	7
萩野企画振興部長 答弁	8
5番 呉 方円さん（金城小学校） 質問	8
彦根市の農業を盛んにし、食料自給率アップを	8
西川産業部長 答弁	9
6番 塩谷涼花さん（亀山小学校） 質問	10
彦根のみんなが読書しやすい環境づくりを	10
安居教育部長 答弁	10
7番 小椋唯人さん（金城小学校） 質問	11

彦根城で3Dマッピングを	11
西川産業部長	答弁	11
8番 守山 響さん（平田小学校）	質問	12
荒神山でみんなが楽しめるためには	12
萩野企画振興部長	答弁	13
9番 齋藤梨花さん（城南小学校）	質問	14
彦根に宿泊してもらうには	14
西川産業部長	答弁	14
10番 山本由華さん（稲枝東小学校）	質問	15
国体での地元の人々の活やくと彦根のPRを	15
大久保市長	答弁	15
11番 田井中開斗さん（平田小学校）	質問	16
図書館の駐車場の有効利用について	16
下山都市建設部長	答弁	17
12番 水野諒平さん（若葉小学校）	質問	18
国体開催に向けてホッケーグラウンド開設を	18
善住教育長	答弁	18
13番 水野悠久さん（稲枝西小学校）	質問	19
テレビを利用して彦根城をもっと有名にしては	19
西川産業部長	答弁	19
14番 中山さつきさん（旭森小学校）	質問	20
たくさんの人々が過ごしやすい図書館にしよう！！	20
安居教育部長	答弁	20
15番 丸山侑輝さん（河瀬小学校）	質問	21
ボランティアに参加しやすい街づくりに	21
馬場文化財部長	答弁	22
16番 近藤綾香さん（城東小学校）	質問	22
彦根の魅力を伝える施設を造っては	22
西川産業部長	答弁	23
17番 中嶋亜美さん（稲枝東小学校）	質問	24
彦根市の公用バスを小・中学生にも使えるようにしてはどうか	24
和気総務部長	答弁	24
18番 徳田優実さん（稲枝北小学校）	質問	25
土曜日に授業をしたらどうですか	25
善住教育長	答弁	25
19番 溝口真唯子さん（稲枝北小学校）	質問	26

歩行者のことを考え、安全に運転してもらうには	26
下山都市建設部長	答弁
20番 出口遥楓さん（鳥居本小学校）	質問
より安全に通学できるように子ども目線のカーブミラーを	27
下山都市建設部長	答弁
21番 馬場宥透さん（城北小学校）	質問
大きくて新しい図書館を	28
大久保市長	答弁
閉会	30

平成27年11月7日

第8回彦根市子ども議会会議録

【第1日】

第8回彦根市子ども議会会議録

平成27年11月7日（土曜日）

議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

会議に出席した議員（21名）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1番 谷口純大さん（城西小学校） | 12番 水野諒平さん（若葉小学校） |
| 2番 藤岡恭演さん（城陽小学校） | 13番 水野悠久さん（稲枝西小学校） |
| 3番 高谷英里菜さん（佐和山小学校） | 14番 中山さつきさん（旭森小学校） |
| 4番 川端智大さん（高宮小学校） | 15番 丸山侑輝さん（河瀬小学校） |
| 5番 呉方円さん（金城小学校） | 16番 近藤綾香さん（城東小学校） |
| 6番 塩谷涼花さん（亀山小学校） | 17番 中嶋亜美さん（稲枝東小学校） |
| 7番 小椋唯人さん（金城小学校） | 18番 徳田優実さん（稲枝北小学校） |
| 8番 守山響さん（平田小学校） | 19番 溝口真唯子さん（稲枝北小学校） |
| 9番 齋藤梨花さん（城南小学校） | 20番 出口遥楓さん（鳥居本小学校） |
| 10番 山本由華さん（稲枝東小学校） | 21番 馬場宥透さん（城北小学校） |
| 11番 田井中開斗さん（平田小学校） | |

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

- 事務局 長 若林重一
- 事務局 次長 廣瀬 淳
- 庶務係 長 大城智昭
- 書 記 菊枝竜也
- 書 記 高山喜市

会議に出席した説明員

市長	大久保 貴 さん	会計管理者	西田 哲雄 さん
副市長	山根 裕子 さん	病院事務局長	川嶋 恒紹 さん
企画振興部長	萩野 昇 さん	消防長	吉村 正樹 さん
総務部長	和気 豊文 さん	教育長	善住 喜太郎 さん
総務部危機管理監	辰巳 清 さん	教育部長	安居 勉 さん
市民環境部長	大倉 浩 さん	文化財部長	馬場 孝雄 さん
福祉保健部長	川 寄 孝 さん	企画振興部次長	山口 昌宏 さん
産業部長	西川 利樹 さん	財政課長	西田 康浩 さん
都市建設部長	下山 隆彦 さん	秘書広報課長	高橋 嘉子 さん
上下水道部長	疋田 武美 さん		

○議会事務局長（若林重一さん） 本日は、第8回子ども議会にお越しいただき、まことにありがとうございます。

ご来場の皆様方をお願いいたします。子ども議会の取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようお願いいたします。保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席からのみとさせていただきますが、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

それでは、第1グループ議長、馬場宥透さん、議長席へお願いいたします。

午前9時15分開会

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 最初に議長をします城北小学校、馬場宥透です。よろしく申し上げます。

ただいまから第8回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に1番谷口純大さん、2番藤岡恭演さん、3番高谷英里菜さん、4番川端智大さんを指名します。

日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

21名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分けて行います。

まず、第1グループの順番は、1番谷口純大さん、2番藤岡恭演さん、3番高谷英里菜さん、4番川端智大さん、5番呉方円さん、6番塩谷涼花さん、7番小椋唯人さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1 番谷口純大さん。谷口さん。

○1 番（谷口純大さん） 「さまざまな病気に対応してくれる病院を」

僕は、難しい病気を診てくれる病院を彦根市にもつくることを提案します。

僕は、大阪の高槻に2カ月に1回、病気の治療のために通っています。僕の腸の病気は、高槻の病院で専門の先生にしか診てもらえません。治療に行く日は学校を休まなければいけません。通院のためではあっても、学校を休むことがつらいと思っています。僕のほかに、きっと通院や治療のために学校を休んだり、家から遠く離れたところで入院をしている人がいると思います。そこで、僕は、市立病院の中に難しい病気を専門的に診てもらえるところをつくってほしいと考えました。

専門の先生がたくさんいると、僕たち患者にとっては安心です。それに、治療のために丸一日、学校を休まなくてもよくなり、うれしいです。僕は2カ月に1回通院で、少しずつ病気もよくなってきました。僕を含めたたくさんの子どもの難病治療のできる市立病院にしてほしいと思いますが、彦根市としてはどう考えておられますか。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 病院事務局長。

○病院事務局長（川嶋恒紹さん） 市立病院は、彦根市をはじめとする湖東地域の中心的な病院として、高度な医療や検査が必要な患者さんや、救急対応、緊急手術が必要な患者さんなどを受け入れるという大きな使命を持った病院です。そのために、市立病院では、内科や外科、小児科をはじめ、心臓の病気を治療する循環器科や胃腸の手術を行う消化器外科、やけどや皮膚移植などに対応する形成外科など、体の各部位の病気を専門的に診療する科を含め、26の診療科を持ち、多くの病気に対して専門的に治療できる体制をつくっています。

しかしながら、病気にはさまざまな種類の疾患や原因などがあり、谷口さんが指摘されている難病に指定されているような病気や今までになかった新しい病気など、より高度で専門的な治療や診察が必要なことも数多くあります。こうしたことに応えていくためには、それぞれの病気に対し、専門の医師やスタッフの配置、また高度な検査や治療機器の整備などが必要となるわけですが、難病に対応できる医師の数が少ない現状の中で、こうした体制づくりは容易ではなく、全ての難しい病気を一つの病院で診ることは大変困難であることをご理解いただきたいと思います。

ただし、難病の種類によりましては市立病院で対応できるものもたくさんありますし、市立病院で対応できない病気の治療などについては、県内外の他の病院や大学病院など、専門の医師がおられたり、専門の治療ができる病院を紹介させていただいています。

さまざまな特色を持った病院が互いに協力し合い連携することによって、より効果的に適切な治療を提供していくことも重要なことだと考えているところですが、市立病院でも市民の皆さんのご要望やご期待に応えていくためにも、今後とも、少しでも多くの専門医療が提供できる体制づくりを進めていくよう努力していきたいと考えています。

以上です。

○1番（谷口純大さん） ありがとうございます。

これで質問を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 2番藤岡恭演さん。藤岡さん。

○2番（藤岡恭演さん） 「彦根城を世界遺産にするために」

僕は、彦根城を世界遺産にするための提案をしたいと思います。

彦根城は、10年以上前から世界遺産の候補に挙がっているのに、いまだに選ばれていません。世界遺産は、人々が大切にしているものや歴史と伝統があるもの、観光客が多く訪れるところが選ばれています。そこで、二つの提案をしたいと思います。

一つ目は、大相撲の力士に彦根城で巡業をしてもらうことです。

相撲は日本の伝統文化です。相撲ファンもたくさんいます。迫力ある相撲が彦根城で行われたら、素晴らしいと思います。外国人観光客も楽しんだり、知名度も上がったりして、いいのではないのでしょうか。

二つ目は、彦根城検定を行うことです。

彦根城検定をすると、検定を受けた人が検定で知ったことを多くの人に伝えて、「彦根城を世界遺産に」という声が広まると思うからです。

また、愛知県には名古屋城検定というものがあるそうです。これには初級、中級、上級があり、初級はテキストを見ながら検定を受けられるそうです。彦根も彦根城検定のテキストをつくって、小・中学校に配って、名古屋城検定のように初級はテキスト持ち込み可能にすれば、小・中学生も受けられると思います。合格すると彦根城の入場無料チケットを渡すと、よりたくさんの方が彦根城にいられて、いいと思います。

彦根城やお城付近では、たくさんのお土産が行われています。これらのことも彦根城検定に入れながら、広く全国にアピールしていけばいいのではないのでしょうか。

以上、彦根城を世界遺産にするための提案をぜひ考えてみてください。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 副市長。

○副市長（山根裕子さん） 藤岡さん、世界遺産に関心を持ってくださってありがとうございます。

彦根城は、平成4年、日本政府によって世界遺産暫定リストに登録されました。しかし、ユネスコの世界遺産条約委員会によって世界遺産に登録していただくためには、登録ルールにのっとった作業が必要です。最も重要なことは、その遺産が明らかに普遍的な価値を持つと認められることです。普遍的なという言葉の意味は大変わかりにくいですが、平たく言えば、希望と感動を与える、そして、世界中の誰もが地元の人たちと協力して未来に残したいと思うような価値のことです。

つまり、彦根城にしかない価値を見つけ、その価値を世界中の人たちに理解してもらえるように説明し、魅力的なストーリーによって心を動かしていただかなければなりません。また、その遺産が真実で完全であることが認められ、その周辺も景観も保護管理されている必要があります。ということは、お城だけでなく、そのストーリーの説明に役立つ城下

町や寺院、神社、そして、お城や城下町の背景に広がる琵琶湖周辺や道路を美しくしなければなりません。

藤岡さんから、大相撲の力士に彦根城で巡業をしてもらったらどうかというご提案をいただきました。確かに、彦根城で大相撲の巡業が行われたら、彦根城の知名度は上がるかもしれません。しかし、彦根藩と大相撲とのかかわりは少ないように思われます。彦根城の魅力を引き出すのであれば、例えば、日本国内のお城の中で彦根城にしか残っていない能舞台を活用するという方法も考えられます。

また、検定をなさるといふ二つ目の藤岡さんのご提案ですが、建築、歴史、美術について市内の小・中学生に研究していただくことは、彦根城にしかない魅力を発見することにつながり、よい結果をもたらすように思われます。いろいろ方法を考えてみたいと思います。

彦根市では、市内の小学校6年生に彦根城の成り立ちや施設を紹介する冊子を配布しています。今年も冬休みまでにお配りしたいと考えておりますので、楽しみにしてください。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 藤岡さん。

○2番（藤岡恭演さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 3番高谷英里菜さん。高谷さん。

○3番（高谷英里菜さん） 「彦根市の観光客を増やすために」

私からは、彦根市にもっと観光客が来るための提案をします。

彦根市に来る観光客のほとんどが彦根城です。そして、春の桜や秋の紅葉の時期だけ、彦根城の周りの道が渋滞します。だから、年中、観光客がたくさん来ているわけではありません。そこで、彦根城の近くにある彦根城博物館について提案があります。

私は昨年、彦根城博物館に行きました。そのとき体験できるコーナーがなく、体験できるコーナーがあったらもっとおもしろいのにと思いました。例えば、実際にその時代の文化を体験できるコーナーをつくったり、映像が見られるコーナー、歴史に興味のある人がより詳しく学べるコーナーをつくったりするとよいと思います。

また、私は昨年、ツアーで能舞台に入ることができましたが、一般の人は入ることができません。せっかくみんなが興味を持ちそうな能舞台に、特別な人しか入れないのはもったいないと思います。時々是一般の人も入れると聞きましたが、毎回入れるようにすると、より多くの人を楽しめると思います。今ある博物館の中身をよりよくしたら、博物館にたくさんの観光客が来るようになると思います。そして、彦根市にたくさんの観光客が来ることにつながると思います。いかがでしょうか。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 文化財部長。

○文化財部長（馬場孝雄さん） 高谷さんから、彦根城博物館に体験できるコーナーなどをつくることや、能舞台についてのご提案をいただきました。

彦根城博物館は、その建築に当たって、彦根藩の表御殿を復元し、建物や庭園なども、古い資料や発掘調査などによって忠実にそのままに再現されています。

現在、博物館では、例えば、よろいを身につけてもらうなどの体験をできるコーナーはありませんが、実際に彦根藩のお殿様が生活をしていた部屋や庭園を通して、江戸時代の雰囲気を感じていただけるほか、能や狂言の映像コーナー、歴史関係の本を置いている学習コーナーを設置しています。

今後は、より多くの人に博物館に来ていただけるように、彦根城や彦根の歴史に関する映像コーナーをつくることのできないか、考えてみたいと思います。

また、彦根城博物館の能舞台は、江戸時代のもので、現在ではほとんどほかに残っていない大名の能舞台で、建築や芸術の歴史上貴重なものとして、長く守っていくために彦根市が指定している文化財です。このため、舞台の床板を米ぬかで磨き、当時のままの管理を行うなどして、厳しいルールのもとで使われる特別なところですので、多くのお客さんに自由にその上に立っていただくことはできません。

そこで、博物館では、定期的に年3回、能や狂言を開催したり、夏休みには子ども狂言教室を開催したりしていますので、皆さんもぜひこのような機会に参加していただきたいと思っています。これからも、能や狂言をはじめ、皆さんに能舞台のことをもっと知っていただけるようなイベントなどを考えていきたいと思っています。

高谷さんからいただいたご提案は、彦根へお客さんを迎えるためには大事なことだと思いますので、博物館としては、体験コーナーなどの充実や能舞台の活用を図りますとともに、本物の歴史資料を常時展示・紹介して、彦根の歴史に関心を持っていただいて、できるだけ多くの人に来館して、彦根に来ていただけるようにしたいと思います。

以上です。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 高谷さん。

○3番（高谷英里菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 4番川端智大さん。川端さん。

○4番（川端智大さん） 「彦根市をもっと多くの人に知ってもらうためには」

僕は、彦根市を多くの人に知ってもらうために、彦根をPRするCMを製作することを提案します。なぜそのように考えたかという、桜の季節、彦根城を訪れたとき、滋賀県ナンバーが目立ったからです。

僕は、こんなCMを考えました。登場人物は、井伊さんと石田三成さんとひこにゃんです。ストーリーは、関ヶ原の戦いの場面から始まります。最初、石田三成さんと井伊さんが戦っています。そこにひこにゃんがやってきて、「戦いをやめようよ。仲よくするために、僕と一緒に彦根を旅しよう」と誘います。3人は、おなかが減ったので、彦根名物「ちゃんぽん」を食べに行きました。その次に、デザートに彦根名物「彦根梨」を食べました。それから、彦根城とご当地キャラ博に行きます。その後に夕食の近江牛を食べて、

彦根港から多景島のクルーズに行って終わりというストーリーです。

このように、彦根の名物や名所をたくさん登場させたCMをつくって、たくさんの場所で放送してもらったら、多くの人に彦根市のことを知ってもらえると思います。

これで僕の提案を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（萩野 昇さん） 川端さんがおっしゃるように、彦根市をもっと多くの人に知ってもらうために、まちの名物や名所など彦根の魅力を積極的に発信していくことは、とても大切なことだと思います。

しかしながら、ご提案いただいたテレビコマーシャルの場合、15秒間のCMを毎日1回ずつ1カ月続けて放送してもらうためには、約2,000万円のお金が必要と言われており、CMの作成には非常に多くの経費がかかります。

そこで、彦根市では、お金をできるだけ上手に使って、彦根市の魅力を多くの人に知ってもらうために、彦根城や城下町の魅力がわかる動画を、インターネットの動画サイトや観光協会のホームページなどで公開をしています。最近では、ご当地キャラ博に来られる観光客の皆さんに電車を利用してもらうように、愛荘町、豊郷町、多賀町のゆるキャラが近江鉄道高宮駅から彦根駅まで電車で移動し、彦根駅ではひこにゃんが3町のゆるキャラをお迎えするシーンを動画サイトに掲載し、公共交通機関の利用を呼びかけました。

また、彦根観光協会のホームページでは、現在開催中の井伊直弼公生誕200年祭の事業として、彦根佐和口学園という仮想の高校のミステリー部の学生たちが活躍する、彦根にまつわる謎解きをテーマとしたドラマを公開し、情報発信に努めておられます。ドラマの筋書きも地域の皆さんが考え、地元の方々も出演されているユニークなドラマとなっています。

提案いただいたテレビコマーシャルは、経費の関係からすぐには実現することはできませんが、まちの魅力を紹介する動画サイトを公開することによって、彦根のことを全国に発信し、多くの観光客の皆さんに来ていただきたいと考えています。

今後、動画を製作するときには、川端さんから提案いただいたアイデアを参考にさせていただきます。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 川端さん。

○4番（川端智大さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 5番呉方円さん。呉さん。

○5番（呉 方円さん） 「彦根市の農業を盛んにし、食料自給率アップを」

僕は、農業を盛んにしてはどうかということについて質問します。

僕は、社会科の授業で、日本の食料自給率が36%でとても低いことを知ったので、どうすれば上げることができるかを考えてみました。そこで、こうすればいいのではないかという意見を二つつくってみました。

一つ目は、空き家などの土地を買い取り、その土地を田畑にすることです。

今の彦根の面積は、およそ200平方キロメートルですが、そのうちの農業に使われている面積は約26平方キロメートルです。割合では13%しかありません。なので、田畑をもう少し増やしてみてもいいでしょうか。

もう一つは、大きなグループをつくって、機械を共用するということです。

機械は高いので個人ではなかなか買えないですが、グループで買えば、みんなが使えるので効率もよくなります。ですから、そのようなグループをもっと大きくするか、新しくつくるといいと思います。

今、農業をする人は少なくなっているのでも、どんどん食料自給率が低くなってきています。ですが、このままではいけません。小さなことからやっていくと、いずれは大きな実になります。この彦根市からもっと農業を盛んにしていって、日本の食料自給率を上げていくことを願います。

○第1グループ議長（馬場有透さん） 産業部長。

○産業部長（西川利樹さん） 平成27年8月に国が発表しました平成26年度の日本の食料自給率は、カロリーベースで39%とされ、平成22年度から横ばい状態です。また、滋賀県の食料自給率は平成25年度50%で、全国平均より11ポイント高い数値となっています。こうした食料自給率は、皆さんが直接口にする米、野菜、果物などのほか、牛や豚、鶏などの家畜の餌となる飼料も含まれており、その多くは外国から輸入しているため、その飼料で育つ牛や豚、鶏の肉や牛乳を使った乳製品の自給率が特に低くなっています。

さて、一つ目にご提案いただきました、空き家などの土地を買い取ってその土地を田畑にすることですが、農地を増やしたい、守りたいという思いがこもった、大変いい提案だと思いました。しかしながら、家が建っている土地を農地として十分利用するには、その土地でプロの農業者が農業を続けられる準備ができていのかどうかという観点や、米や野菜を育てる水がしっかりと確保できる場所かどうかという観点から、既に住宅地となっている地域では、残念ながら非常に難しいと思います。

彦根市には、田畑で米や野菜の栽培がされずに放置されている耕作放棄地が約45ヘクタールあります。これは甲子園球場の約10個分の面積となります。この耕作放棄地を本来の農地に戻すことが重要と考えますので、私たちは、耕作放棄地を減らす、さらにはこれ以上増えることを予防する努力をしてきたところです。

ご提案いただいたように、宅地を使って農業をすることについては、例えば、それぞれのご家庭で必要な野菜を育ててもらって家庭菜園などに取り組んでもらって、自分たちでつくった食べ物を自分たちで食べるという方法もあると思います。農地を守っていききたい、増やしていききたいという思いは私たちも同じですので、これからも一緒に考えていけたらと思っています。

次に、二つ目にご提案いただきました、大きなグループをつくって機械を共用すること

ですが、これも非常によい提案で、とても具体的であると感じています。

現在、彦根市では、集落の農業者が大きなグループをつくって農業を行う集落営農という取り組みがあり、農業用の大きな機械を共同購入し、それぞれ個人の負担を小さくしながら、機械を共同利用できる制度があります。また、野菜の苗を植える高価な機械をJA東びわこが購入し、その機械を使いたい農業者に貸し出しする仕組みをつくりました。これからも、農業に意欲のある農業者が農業機械を共同利用できるように取り組んでいきたいと考えています。

最後に、呉さんのおっしゃるとおり、我が国の食料自給率をより上げていくためには、このような制度を充実させながら、彦根市の農業をもっと盛んにしていきたいと考えています。

以上です。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 呉さん。

○5番（呉 方円さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 6番塩谷涼花さん。

○6番（塩谷涼花さん） 「彦根のみんなが読書しやすい環境づくりを」

私は、彦根のみんなが読書しやすい環境づくりを提案します。

私は2週間に1回、図書館に行きます。しかし、現在の市立図書館は市の北部にあるので、南部の人には行きにくいです。以前、図書館を移転するという計画も議論されていると聞きましたが、実現するにはたくさんのお金と時間がかかります。解決策として、「たちばな号」がありますが、本が少なく、開館時間が学校にいる時間と重なっているので、余り利用できません。また、ほかの市や町にはたくさんの本があるそうです。

そこで、提案です。市の南部に図書館の出張ブースをつくります。インターネットで事前に予約をしておくと、ブースに行ったとき本が貸し借りできるシステムをつくってはどうか。ほかの市や町の図書館にある本もインターネットで貸し出し予約できるようになると、便利になると思います。また、ゆっくりできるスペースも欲しいです。なので、駐車場が大きく、大勢の人が集まる場所に図書館のブースをつくってほしいです。

以上、私の提案です。これによって、彦根に住み、みんなが、誰でも、いつでも読書に親しみやすい環境をつくっていきたいです。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 教育部長。

○教育部長（安居 勉さん） 塩谷さんは図書館をよく利用していただきまして、ありがとうございます。今日は、みんなが読書しやすい環境づくりをということで、幾つかの提案をいただきました。

市内に図書館の出張ブースをつくり、インターネットを利用して本を予約しておけば、そのブースで本が借りられたり返したりすることができることになれば、利用者にとっても便利になって、図書館から離れている人にも本を多く借りてもらえる、大変よい考えだ

と思います。

しかし、現在の図書館とそのブースをインターネットでつなげて本の貸し出し予約ができるまでには、必要となるさまざまな設備を整えなければならないことや、そこまで本を配送したり、また職員を置くなど、いろいろな課題があることから、すぐにはできるものではないと考えております。

移動図書館「たちばな号」については、毎月、市内52カ所を回っています。また、学校へは一度に50冊まで本を貸し出ししています。授業で使う本や読みたい本があれば、学校への貸し出しとして1カ月借りることができますので、先生や市立図書館に相談してください。もう少し便利に使ってもらえると思います。

塩谷さんは、「みんなが、誰でも、いつでも読書に親しみやすい環境をつくっていきたい」と述べられましたが、この考え方は図書館を考える上で大変大事な考え方だと思います。

今後は、新しい図書館の計画を進めていく中で、いろいろな会議などで多くの人の意見を聞き、話を進めていきたいと考えています。

以上です。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 塩谷さん。

○6番（塩谷涼花さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 7番小椋唯人さん。小椋さん。

○7番（小椋唯人さん） 「彦根城で3Dマッピングを」

僕は、彦根城で3Dマッピングについて提案します。

僕は、冬休みに大阪城へ3Dマッピングを見に行きました。大阪城では、大阪城の歴史とか戦争のときの様子が映されて、建て直されたときのことなども映されていました。お城に直接映像が映し出されていて、目の前にあるので、とても迫力があります。それに、大阪城だけではなく、別館の方にも3Dマッピングがされていて、別料金を払えば特等席で見られるようになっていました。昼間見るお城とは全く雰囲気は違っていました。なので、僕は彦根城で3Dマッピングすることを提案します。

彦根城でも3Dマッピングをすると、一度彦根城に来たことのある人もまた見に来てくれて、観光客が増えて、彦根城の印象が残ると思います。そうすれば、彦根に来てくれる観光客も増えて、彦根のことをもっと多くの人に知ってもらえるからです。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 産業部長。

○産業部長（西川利樹さん） 3Dマッピングについては、小椋さんが見学された大阪城をはじめ、姫路城や東京駅などで実施され、冬の新しい夜型イベントとして話題になりました。夜型イベントを行うことは、滞在時間の延長や宿泊につながる有効な手段ではありますが、3Dマッピングに関しては多額の費用がかかることから、これまで実施されたところの事例も参考にしながら、どれだけの来場が見込め、彦根にとって経済的にもプラス

になるのか、しっかりと研究する必要があります。

例えば、大阪城では2年前の冬に初めて3Dマッピングを実施され、このときは大きな反響があり、60万人の来場者がありました。しかし、2回目となる昨年度は、来場者が目標数値の半分以下の34万6,000人と大きく減少し、今年度の開催については未定となっていると聞いております。これは、アミューズメントパークや水族館など、他の施設でも3Dマッピングをされるようになったことで、目新しさが薄まったことが原因だと言われています。

現在、彦根城では、9月から11月末にかけて、内堀の石垣や佐和口多聞櫓など、彦根城一帯を幻想的にライトアップする「ひこね夢灯路」や、11月中旬から下旬の紅葉で最も美しい時期を迎える玄宮園をライトアップする「錦秋の玄宮園ライトアップ」を開催しています。3Dマッピングのような派手さはありませんが、本物の文化財や大名庭園を落ちついた雰囲気でも照らし出すことで、彦根の秋のイベントとして定着してきており、特に「錦秋の玄宮園ライトアップ」につきましては、昨年は来場者が前の年に比べて倍増するなど、効果を上げています。

また、新たな試みとして、昨年からの夜間の彦根城を公開する「彦根城夜楽」を実施しており、ライトアップされた彦根城の天守を間近で見させていただいたり、甲冑武者によるお出迎えや白壁を使った映像投影など、お客様に楽しんでいただける企画を実施しています。

今後は、こうした取り組みの結果を踏まえて、彦根城の新しい活用の仕方についても検討していきたいと考えています。

以上です。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） 小椋さん。

○7番（小椋唯人さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第1グループ議長（馬場宥透さん） しばらくの間、休憩します。

午前 9時56分休憩

午前10時10分再開

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 議長を交代しました。金城小学校の小椋唯人です。よろしくお願いします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、8番守山響さん、9番齋藤梨花さん、10番山本由華さん、11番田井中開斗さん、12番水野諒平さん、13番水野悠久さん、14番中山さつきさんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

8番守山響さん。守山さん。

○8番（守山 響さん） 「荒神山でみんなが楽しめるためには」

僕からの質問は、小学生が参加できる荒神山などのキャンプの開催する回数、定員の数

を増やしてほしいということです。なぜかというと、僕は去年、荒神山のキャンプに行つて、知らない人、担当の人とでグループが決めてあり、環境もきれいでわくわくし、夜には一緒に夜ご飯をつくり、ナイトハイクをしたり楽しかったけれども、今年の荒神山のキャンプは定員がいっぱいで行けなくて、とても残念でした。

また、そのキャンプの開催数が少なく、自分の予定が合わないことがあるので、回数を増やして、前回に行けなかった人や6年生を優先し行けるようにしたり、定員の数を多くしたらどうでしょうか。

また、そのグループは、知らない人、違う学校の人とグループを組めば、より協力でき、その大切さを感じられると思います。でも、協力する作業が少ないので、数を少しでもいいから増やしてみたらいいと思います。

だから、僕は、小学生の参加できる荒神山などのキャンプの開催する回数、定員の数を増やして、たくさんの人に荒神山のよさを知ってほしいと思います。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（萩野 昇さん） 最初に、荒神山でのキャンプをもう一度体験したいとイベントに応募いただき、さらに、イベント開催を活発にするよう提案をいただいたことに対して、お礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

荒神山自然の家では、自然に親しみ、新しく出会った友達同士がふれあい、友好を深めるとともに、集団生活を通して基本的な生活習慣を身につけたり、自立心を育ててもらうことを目的として、小学校高学年を対象とした宿泊キャンプなどの独自のイベントを開催しています。

今年度は、6月に日帰りキャンプの「荒神っ子クラブ」、8月にテント泊での「チャレンジ！サマーキャンプ」、9月に家族と一緒にテント泊をする「ファミリーキャンプ」を開催しました。また、来年1月にも日帰りキャンプの「荒神っ子クラブ」を開催する予定です。

8月に実施した「チャレンジ！サマーキャンプ」では、定員30人を先着順で受け付けたところ、定員を超える多数の応募があったため、応募者全員に参加してもらうことがかなわず、守山さんをはじめ参加できなかった人に対しては、大変申しわけなく、残念に思っています。

こうしたイベントを開催するためには、数カ月も前から計画をして、相当の準備を行う必要があります。また、参加者全員に安全で有意義な活動をしてもらうためには、参加者の規模に応じた人数のスタッフが必要になります。

このように、回数や定員を増やすことは簡単ではありませんが、たくさんの人に荒神山のよさを知ってほしいという願いは私たちも強く持っていますので、来年度は何とか工夫をして、少しでも回数を増やすなど、より多くの人に参加してもらえる方法を検討したいと考えています。

なお、初めて応募する人、一度参加してもう一度応募する人、6年生、5年生、4年生、

全ての応募者の参加したいという思いを大切にしたいと考え、参加者の決定に当たって、特定の人を優先することは考えておりませんので、ご理解をお願いします。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 守山さん。

○8番（守山 響さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 9番齋藤梨花さん。

○9番（齋藤梨花さん） 「彦根に宿泊してもらうには」

私は、彦根に宿泊してもらうために、家族や友達、観光客も気軽に参加できるようなスタンプラリーを彦根城内で行うということを提案します。

今、彦根市は、彦根城というすばらしい城があるにもかかわらず、彦根城を観光する人が1、2時間で帰ってしまい、結局、宿泊する場所は京都などになっていて、彦根が潤わないという問題を抱えています。その問題を解決するためにも、スタンプラリーで彦根城内をくまなく回って、彦根城に半日ぐらいいてもらおうと、彦根に宿泊することが増えると思います。しかし、実際、スタンプラリーを行っているところもありますが、余り宿泊客の数は増えていません。そこで、一つ、新しいことをやります。

それは、彦根城内でいろいろな体験をしながらスタンプを押してもらうということです。例えば、井伊の赤備えにちなんで赤のかぶとをかぶるサービスを行う、スタンプを全部集めると馬に乗れる、などです。スタンプを全部集めると物を渡すのだと、お金もかかるし、ストラップやボールペンなど観光客にあげても喜んでくれません。喜んでくれて、また彦根に行きたいと思ってもらうために、インパクトのある「馬に乗る」ということはよいと思います。

彦根市は、やることあるがお金がないからということで、できないことが多いことを今回知りました。そこで提案です。彦根が潤い、彦根がよりよいまちになるために、彦根城内でスタンプラリーをしたらよいと思いますが、どうですか。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 産業部長。

○産業部長（西川利樹さん） 齋藤さんから提案いただきましたスタンプラリーは、彦根で長い時間過ごしていただくための有効な手段の一つであると思います。

彦根でも、現在、城まつり事業として実施している「彦根いい秋散策プラン」の中で、彦根城などの観光スポットや市内のお寺、神社に設置したスタンプと食事やお土産のお店を利用されたときにもらえるシールを組み合わせたスタンプ&シールラリーを行っており、たくさんの方が参加されております。

このスタンプ&シールラリーは、馬に乗れたり、井伊の赤備えのかぶとをかぶれるという特典ではありませんが、集めたスタンプとシールの割合に応じて、ひこにゃんなどのキャラクターのイラストの入った特製のケースをお渡しすることに加え、抽選で近江牛や鮎の佃煮、お茶と和菓子のセットなどの特産品やクオカードを当選者にプレゼントしています。期間中、たくさんの方が参加されておりますので、今年の状況も見ながら、今後どう

していくか考えていきたいと思っています。

彦根で宿泊してもらうためには、長い時間、彦根で過ごしていただくことが重要であり、彦根ならではのイベントや体験、食事など、さまざまな工夫をし、観光客の方に楽しんでいただく必要があります。

こうしたことから、彦根では、滞在時間を延長し、宿泊してもらうため、彦根城に夜に登ることができるイベントや玄宮園での紅葉のライトアップなど、夜間のイベントにも取り組んでいます。

これからも、齋藤さんに提案いただいたように、たくさんの方に彦根に来てもらい、宿泊してもらえるよう、さまざまなイベントを実施することに加えて、彦根の魅力をPRしていきたいと思っています。

以上です。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 齋藤さん。

○9番（齋藤梨花さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 10番山本由華さん。山本さん。

○10番（山本由華さん） 「国体での地元の人々の活やくと彦根のPRを」

この彦根で2024年に国民体育大会があるので、私は、ぜひ地元の人に活躍してほしいと思っています。そのために、選手がいつでも練習できるような高度な器具や設備が整ったトレーニング施設などがあつたらいいと思います。この施設には、地元の人々のトレーナーを入れたらいいと思います。地元の人だと、いろいろな相談も気軽にでき、選手も伸び伸びとできるのではないのでしょうか。

また、その施設には、彦根市の特産物を使ったドリンクなどを販売し、利用者によく売れたのなら、国民体育大会でも売ってPRしたらいいと思います。という理由から、私は、国民体育大会での地元の人々の活躍と彦根市のPRを提案します。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 山本さんのご意見のとおり、私たちは2024年国民体育大会が彦根で開催されるに当たって、一人でも多くの彦根の方がこの大会で活躍してもらいたいと思っています。そのためにも、多くの選手が参加できるような支援をこれからしていきたいと思っています。

もう聞いておられるかわかりませんが、松原町の滋賀県立彦根総合運動場がありますね。今、ここにあるグラウンドが第二種競技場となっています。これはお客さんが大体6,000人収容できるというものですが、このトラックを含めたスタジアムを第一種の公認競技場に改めなければならないということです。第一種の競技場というのは、少なくとも1万5,000人以上の方が来ていただいて、見ていただけるような施設だということです。そのために、そこにあります彦根市の市民体育センターを別の場所に移設をしないといけないということになって、今、準備をしています。

新しい第一種の公認競技場にもトレーニングの施設等々ができると聞いていますが、私たちは、新しい市民体育センターにおいてどのような機能を持たせるかということを検討を始めています。ご利用される方々や市民の皆さん、また専門家の方々からさまざまなご意見を伺って、この施設をつくっていきたいと思っています。山本さんのご意見も参考にしていきたいと思っています。

トレーニング施設の充実も含めて、今後の運営方法もこれから決めていかなければならないと思っています。とにかく、多くの人たちがアスリートとして育っていけるように、環境整備に努めていきたいと思っています。

また、国民体育大会では、地元の産品などをPRすることがよくあります。今年開催されました和歌山での国体に私も行ってまいりました。会場の各地で特産品のドリンク、飲み物を無料で振る舞っておられたことがありました。

聞いておられるかわかりませんが、彦根では11月3日から、四番町スクエアというところで、彦根の特産品であります彦根梨を使った「ひこねおもてなしジュース」とか「ひこねおもてなしサイダー」というものを販売されているということです。数は限られているということですが、この商品を開発された滋賀大学とか彦根梨組合の皆さんも、これからもこの商品を開発して生産していこうということですから、私どもも楽しみにしております。

また、今年は井伊直弼公の生誕200年祭を彦根で開催していますが、その一環として、「ひこね菓子選手権」というのを開催いたしました。彦根の高等学校の生徒さんが考案をされた、彦根梨を使った水ようかん「彦水」というのが誕生しました。これが商品化が決まりまして、今、いろんなお店で販売していこうとされています。

今後も、これらの商品や彦根を代表するさまざまな特産品の販売やPRに積極的に市としても参加をして協力し、国民体育大会では皆さんに提供していったアピールをしていきたいと考えています。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 山本さん。

○10番（山本由華さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 11番田井中開斗さん。田井中さん。

○11番（田井中開斗さん） 「図書館の駐車場の有効利用について」

僕は、図書館専用の駐車場のことで、質問と意見の二つがあります。

まず質問します。利用客の人は全員、車をとめられているかということです。なぜなら、僕は市立図書館に行ったときに、釣り人の人が駐車場を使っていて、なかなかとめられなかったことがあったからです。

次に、提案です。持ち物に釣りざお、または餌があるかチェックして、持っていない人は無料にして、持っている人は駐車料を払うようにしたらどうでしょうか。

さらに、このチェック作業と路上駐車の確認をボランティアとして取り組んでもらって、

取り組んでもらった方にはスタンプカードを渡して、10個ためたら彦根市のイベントで使えるチケットと交換するようにするといいと思います。ほかにアイデアがあるのなら取り組んでください。

以上、これが僕の意見ですので、検討してください。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） ご質問の図書館の駐車場は、隣接する金亀公園の駐車場ではありますが、現在は図書館を利用される皆様にも使っていており、全部で148台の駐車ができるようになっております。

この金亀公園駐車場につきましては、平日など通常は問題なくご利用いただいておりますが、休日や季節によっては駐車場が満車になり、利用される皆様にお待ちいただいていることや、路上へ駐車される状態が生じていることは承知しています。

理由として、田井中さんのご質問にあるように、近くで釣りを楽しむ方の利用が多いことも一因であることも承知しております。彦根市としましても、公園や図書館を利用されず、釣りのみでの駐車場利用はご遠慮いただくようお願いする看板を掲示し、公園と図書館を利用される方が有効に駐車場を利用できるよう呼びかけています。

田井中さんのご提案につきましては、公園内の散歩とあわせて釣りを楽しむ方もおられ、釣りの道具を持っていることだけで区別することは難しいと思います。

しかしながら、本市としましても、図書館を利用される方への配慮は必要と考えております。駐車区画の一部に、図書館利用者の優先をあらわす路面表示などの対応は取り組めるものと思います。

また、平成36年に滋賀県で開かれる国民体育大会にあわせて、金亀公園の再整備を行っていかうとしておりますので、その中で、田井中さんのご提案も参考にさせていただき、駐車場が有効に活用できるよう考えていきたいと思っております。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 田井中さん。

○11番（田井中開斗さん） 再質問します。

釣りざおや餌を持っているだけで判断が難しいのであったら、もうどちらも使えるようにして、駐車場を分けて使ったらいいと思います。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） 再質問にお答えします。

確かに、今私が申しましたのは、公園という駐車場であることから厳密にそういう区分けができずに、そういうご提案が難しいとお答えしましたので、今、再質問されたように、それなら逆に、皆さんが使えるようにしてはどうかというご提案だと思っておりますが、一番最初に言いましたように、148台という駐車が広いのか狭いか、これもまた判断が難しいと思います。

お答えとしましては、一番最後に申しましたように、今検討を始めました金亀公園のリニューアル整備の中で、今のご意見も参考にさせていただきたいと思っております。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 田井中さん。

○11番（田井中開斗さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 12番水野諒平さん。水野さん。

○12番（水野諒平さん） 「国体開催に向けてホッケーグラウンド開設を」

僕は、2024年の国体開催に向けて、ホッケーのグラウンド開設を要望します。

今、僕はスポーツ少年団に入り、ホッケーを頑張っています。しかし、今、ホッケーをするグラウンドが、そして選手も少なくなっています。ホッケーの試合は米原市の人工芝のホッケー場でいつもしていますが、滋賀県にはその一つしかありません。市内の南中学校にはホッケー部があります。南中学校は今年の夏の全国大会で優勝しました。先輩にはオリンピック選手もいます。彦根が誇れるスポーツだと僕は考えます。

ホッケーの専用グラウンドをつくってもらえば、今の選手も練習しやすくなるし、ホッケーに興味を持ってやり始める子どもが増えることでもっと強くなり、2024年の国体やオリンピックで活躍する選手が出てくると思います。僕は、これからも練習をして、国体に出場して活躍したいと思います。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 現在、彦根市内の小・中学生の皆さんは、スポーツ少年団活動や部活動、またクラブチームの活動として、野球、バレーボール、サッカー、そして水野さんがされているホッケーなど、多くの種目で活動をされています。

それらの活動に当たっては、それぞれに専用の練習場があればいいのですが、大きな用地が必要なほか、練習施設をつくるためや施設をつくってから維持管理をするためには多くの費用が必要になり、難しいのが実情です。そのため、屋外競技ならば、市の施設である金亀公園や荒神山公園、庄塚公園などのグラウンド、または市内の小・中学校が開放している運動場などを譲り合いながら練習をされています。

このような環境の中で、本年度、南中学校男子ホッケー部は全国大会で優勝という輝かしい成果を上げられました。南中学校でも練習場が十分でない状況は承知しており、使える施設や練習方法の工夫などで素晴らしい成績を残されたことに、私も大変うれしく、そして誇りに思っています。

彦根市では、2024年に滋賀県で開催される国民体育大会に向けて、水野さんのようにスポーツに一生懸命取り組む市民の皆さんにとって、よりよい環境をつくることができればと考えています。

ホッケーを愛する水野さんの願いは十分承知しておりますが、いろいろなスポーツ施設を整えるための場所やお金が必要であり、現在のところ、ホッケー専用の競技場をつくる計画には至っておりませんが、彦根市民の皆さんにもっとホッケーに興味を持ってもらい、ホッケーが今以上に親しまれるスポーツとなりますよう、今の選手の活躍を広くお知らせしたり、市の主催行事である元気フェスタなどで競技を体験できる機会をつくったりして、

引き続き応援していきたいと思いますので、水野さんもさらに頑張ってくださいを願っています。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 水野さん。

○12番（水野諒平さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 13番水野悠久さん。水野さん。

○13番（水野悠久さん） 「テレビを利用して彦根城をもっと有名にしては」

僕は、彦根城をもっと有名にするために、テレビを利用してPRをするとよいと思います。

去年の子ども議会の質問の答えに、「最近、彦根城のことがBSで紹介された」とありますが、BSはみんなが見る機会が余りないので、よく見る地上デジタル放送で紹介したりPRをしたりすると、興味を持つ人が増えて、もっと有名になると思います。

僕たち子ども目線で考えると、視聴率が高い番組の間にアニメを使ったPRを入れると、見る人が増えて、観光客も増えるのではないのでしょうか。僕の学校では、はえみちゃん、じょうろくん、みつばっちーのキャラクターがいて、それらが出てくるとみんなが盛り上がります。だから、ひこにゃんはいるけれども、ほかにもたくさんのキャラクターをつかって彦根城をPRすれば、もっと盛り上がると思いました。

観光客にパンフレットやステッカー、ガイドブックを配ったりするのは大事だけれども、たくさんの方がテレビを見ているので、テレビでPRをすると、もっと有名になるのではないのでしょうか。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 産業部長。

○産業部長（西川利樹さん） 水野さんから提案いただいた、テレビを利用したPRについては、たくさんの方に彦根城を知っていただくために、大変効果のある手法だと思います。

PRの手法は幾つもありますが、テレビなどの映像を活用したPRは即効性があり、テレビ番組などで取り上げられると、それを見て彦根に来たという方もおられます。

こうしたことから、彦根市では平成25年10月に、映画やドラマ、バラエティなどのテレビ番組に彦根城をはじめとした彦根の魅力を上げてもらうため、フィルムコミッション室を立ち上げ、映像作品への支援と誘致のための活動を行っています。

こうした活動により、昨年度までに「満天★青空レストラン」や「ぴったんこカンカン」といった人気番組をはじめ、59本の番組で彦根城が紹介され、そのうち、地上デジタル放送では23本の番組で彦根城が紹介されました。

また、今年度も既に35本の映画やテレビ番組で彦根城が紹介されておりますが、水野さんご指摘のとおり、地上デジタル放送は、全国のたくさんの方々にPRができる方法として、とても有効でありますので、今後もテレビ番組に彦根城を取り上げてもらえるよう、積極的に取り組んでまいりたいと思います。

また、ひこにゃん以外のキャラクターをつくって彦根をPRするというご提案については、現在、彦根には、ひこにゃんのほかにも、やちにゃん、ひこどん、カモンちゃん、ゑびすくん、しまさこにゃん、ぎんにゃんなど、商店街や学校などのキャラクターがたくさんおり、彦根を全国にPRしてくれていますので、これらのキャラクターと一緒に彦根をPRし、盛り上げていきたいと考えています。これからも、ひこにゃんともども、他のキャラクターも応援をしてください。お願いします。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 水野さん。

○13番（水野悠久さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 14番中山さつきさん。中山さん。

○14番（中山さつきさん） 「たくさんの人々が過ごしやすい図書館にしよう！！」

私は、彦根市立図書館を、もっと過ごしやすい図書館にすることを提案します。

私の兄はよく図書館に通っていたのですが、「図書館には借りることができない重要な本があり、それを勉強に使いたいのに、そこで勉強ができない」と何度か言っていました。私自身、借りたい本がなく、リクエストに日数が長くかかったりと、幾つか困る点がありました。

佐賀県の武雄市図書館をご存じでしょうか。武雄市図書館には、いろいろな本が置かれているのはもちろん、カフェスペースや学習室、なんと点訳スペースまであり、利用者も年々増えていると聞いています。私は、この武雄市図書館を理想として、学習スペースやゆっくりできるスペースをつくり、さらに本の冊数や種類を増やせば、彦根市立図書館はもっと過ごしやすく、落ちつくようなところになると思います。

それと、私自身で図書館のゆるキャラ、シオリンを考えました。この絵を見てください。シオリンは本を読むのが大好きで、いつも図書館にいる女の子です。しおりをイメージしています。このゆるキャラと生まれ変わった図書館があれば、武雄市のような全国的にも有名な図書館になり、彦根市内でも本に興味を持ってくれる人がもっと増えるのではないのでしょうか。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 教育部長。

○教育部長（安居 勉さん） 中山さんやお兄さんも図書館をよく利用していただき、ありがとうございます。

今日は、たくさんの人々が過ごしやすい図書館にしようということで、幾つか提案をいただきました。

図書館には、新しい本から古い歴史のある本、彦根について書かれた本、辞典や辞書、何種類もの雑誌など、いろいろな分野の本があります。中には、図書館に調べものに来られた方がいつでも図書館で利用できるように、いつも図書館に置き、貸し出しをしていない本もあります。また、新しい本や人気のある本は取りそろえていますが、予約の多い本は、長く待ってもらわないと借りられないものもあります。

ご紹介いただきました佐賀県武雄市の図書館は、書店とカフェが併設され、市外、県外から多くの方が訪れているそうです。

彦根市立図書館は昭和54年に建てられたため、新しい図書館と比べると設備やスペースでは見劣りします。また、彦根市の人口や広さで、図書館が一つでは、十分な図書館のサービスができないと考えています。そのため、新しい図書館を建てる計画をつくろうと検討を始めているところです。図書館の本の種類や冊数を増やしたり、過ごしやすい図書館にしようと思っています。その際には、中山さんが理想と思われました武雄市の図書館も参考にしたいと考えています。

また、図書館が多くの方から注目を集めるように考えていただいたシオリンは、ひこにゃんと同じゆるキャラとして、彦根の図書館をもっとPRできるよいアイデアだと思います。

市民や利用者の皆さんに親しまれ、利用しやすい図書館、期待に応えられる図書館であるように努めていきたいと考えています。

以上です。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） 中山さん。

○14番（中山さつきさん） ありがとうございます。

これで私の発表を終わります。

○第2グループ議長（小椋唯人さん） しばらくの間、休憩します。

午前10時46分休憩

午前10時55分再開

○第3グループ議長（中山さつきさん） 議長を交代しました。旭森小学校、中山さつきです。よろしくお願ひします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、15番丸山侑輝さん、16番近藤綾香さん、17番中嶋亜美さん、18番徳田優実さん、19番溝口真唯子さん、20番出口遥楓さん、21番馬場宥透さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

15番丸山侑輝さん。丸山さん。

○15番（丸山侑輝さん） 「ボランティアに参加しやすい街づくりに」

僕は、ボランティアに参加しやすいまちづくりについて提案します。

僕は、よく家族と一緒に彦根城へ行きます。一緒に行くと楽しいし、季節が変わると雰囲気も変わります。それは、彦根城が白い壁で、石垣がはっきり見えて、堀の水がきれいだからです。しかし、何度か彦根城に行ったとき、堀の水が汚れていたり、木の枝やごみも落ちていたことがありました。だから僕は、彦根城をいつ誰が見てもとてもきれいな彦根城にするために、ボランティアをしたらいいと思います。

ボランティアに入る人を集めるには、インターネットで呼びかけたり、できればテレビ

番組に協力してもらったり、張り紙や「こんきくらぶ」などにお知らせすればいいと思います。さらに、ボランティアに参加した人には彦根城入場券やおもちゃなどをプレゼントすると、大人から子どもまで簡単に参加できると思います。

ボランティアに参加しやすいまちづくりにするために、このような彦根城をきれいにするボランティアを提案します。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 文化財部長。

○文化財部長（馬場孝雄さん） 彦根城は1年を通して公開しており、年間70万人以上のお客様にお越しいただいています。お客様への対応や、敷地面積が約49ヘクタールもある彦根城を安全に見ていただくために、80名以上の市の職員で日常の管理を行い、草むしりや落ち葉の清掃、ごみ拾いなどを行っています。また、堀の水をきれいにするために、下水道を整備したり、彦根城の北側の港湾から水を引き入れて循環させるなどして、水質の浄化に努めています。

このように市が日常の管理をしていますが、彦根城の中や周辺にごみや空き缶が捨てられていることがあります。このため、市民の皆さんや会社などで働いている人たちが、自主的なボランティアで周辺の清掃活動を行って、彦根城をきれいにしていただいている場合もあります。

丸山さんのご提案のように、彦根城を大切に思い、未来に美しいまま残していくためには、草刈りやごみ拾いなどのボランティア活動などを積極的にしていただくことは、とても大切なことだと思います。また、彦根城だけでなく、彦根のまち全体をきれいにするのが、彦根市にお越しいただく方へのおもてなしになると考えています。

また、清掃活動ではありませんが、市では、彦根城の古い桜を守っていくために、桜の咲く季節の前後には、市民団体の方々と協力して桜の木に肥料をやる活動を行っています。これは、「広報ひこね」やホームページを通じてボランティアを募集して、参加していただいた方には、再度彦根城に来ていただけるように、彦根城の入場券をお渡ししています。このような活動も彦根城を美しくすることにつながると考えていますので、こうしたボランティアについては、今後もより多くの皆さんに参加していただけるように、インターネットで呼びかけるなどして、積極的な広報、PRに努めていきたいと思っています。

彦根城が美しくあり続けられるよう、また、彦根城だけでなく、彦根のまち全体を美しく保ちながら未来に残していくために、丸山さんをはじめ市民の皆さんにも、空き缶などのポイ捨て禁止やごみ拾いなどについてご協力をいただければと思います。貴重な提案をしていただき、ありがとうございました。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 丸山さん。

○15番（丸山侑輝さん） ありがとうございました。

これで僕の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 16番近藤綾香さん。近藤さん。

○16番（近藤綾香さん） 「彦根の魅力を伝える施せつを造っては」

私は、観光客の方々に二度三度来てもらえるような観光のまち・彦根づくりについて提案します。

私は、花しょうぶ通りの近くに住んでいます。土・日は人通りも多くとてもにぎやかですが、以前ほどのにぎやかさはありません。楽しそうに歩く観光客の方々を見て、観光客の人が一度ではなく二度三度、彦根に来てもらえるといいなと思いました。

そこで、私は、彦根のことが一目でわかるような映像や彦根ならではの食べ物を楽しんでもらえる施設があるといいなと考えました。その映像の中に、彦根の様子や商店街のよさ、彦根の歴史が伝わるような映像を映し出せば、彦根の魅力が観光客の方々に伝わると思います。少しおながすいたところで、彦根でその季節のお食事コーナーがあれば、観光客の方は一度ではなく二度三度来てもらえると考えました。

これが私の考えた彦根の魅力を伝える施設です。外観はひこにゃんの形をして、小さい子どもからお年寄りまで楽しんでもらえるよう、また入ってもらいやすいようにと考えました。このように、私は彦根の魅力が詰め込まれた施設をつくることで、以前のような活気あふれるまちになると思います。そして取り組んでほしいと思いますが、彦根市としてはどう考えておられますか。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 産業部長。

○産業部長（西川利樹さん） 近藤さんのおっしゃるように、観光客の方々に一度だけでなく二度三度と彦根に訪れていただけるリピーターになっていただくことは、彦根市の観光にとって大変重要なことだと思います。

そのためには、彦根城やひこにゃんをはじめ、歴史や文化、豊かな自然風景など、できるだけ多くの魅力を知っていただき、「また来てみたい」と思っていていただく必要があり、提案いただいたように、映像を活用することはとても有効な手段であると考えます。

彦根市では、現在、インターネット上や井伊直弼公生誕200年祭の特別展会場などで彦根観光の魅力を紹介する動画を上映しているほか、観光パンフレットにも情報を掲載しており、今後もこういった取り組みを続けていきたいと思っています。

また、食事については、旅の楽しみの大きな要素であり、旅行先でおいしい食べ物を食べれば、その土地に対する満足度も高くなります。

多くの観光客の方が来られている夢京橋キャスルロードや四番町スクエアなどでは、お食事をしていただくお店がたくさんあり、食べ歩きできるような食べ物も販売されていますので、こういったまちなかで季節の食べ物や彦根ならではの食を楽しんでいただき、いろいろなお店の方や市民の皆さんのおもてなしの心にも触れていただければ、より彦根の魅力が伝わるのではないかと考えています。

近藤さんご提案の、今も絵を見せていただきましたけれども、新しい施設をつくることも大変よい方法の一つだと思いますが、開国記念館や彦根城内の櫓、夢京橋あかり館や俳遊館など、既にある市の施設を活用して彦根の魅力を映像で紹介したり、商店街などのまちなかでおいしい食事をとっていただいた方が、まち全体のにぎわいにつながり、魅力あ

る城下町として全国に知っていただけるようになるのではないかと考えております。

以上です。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 近藤さん。

○16番（近藤綾香さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 17番中嶋亜美さん。中嶋さん。

○17番（中嶋亜美さん） 「彦根市の公用バスを小・中学生にも使えるようにしてはどうか」

私は、彦根市の公用バスを小学生、中学生にも使えるようにしてはどうかということを提案します。

ことしもバスを利用した校外学習で、各校で多くのことを学習してきました。教室での学習とは違い、この目で見たり聞いたりできる学習なので、とても楽しいです。私が校区外で訪れたい場所はたくさんあります。例えば図書館や荒神山、北部の下水処理場などですが、バスでの校外学習はお金がかかり、年間1度だけなので、なかなか行くことができません。特に駅から遠い学校は、春や冬など、ほかの季節に施設見学をするのが難しい、それが実態だと思います。

そこで、彦根市に小学生や中学生が自由に使えるバスがあると、いろいろなところに出かけて見学ができ、さらに学習が深まると思うのです。そのような話をしていたとき、教頭先生から聞いた話では、彦根市はバスを2台持っているということでしたが、残念なことに、今は小学生、中学生には使わせてもらっていません。

そこで私は、市のバスを小学生、中学生にも使えるようにしてはどうかということを提案します。市内への移動ができるようになると、社会科や総合的な学習の時間での校外学習はもちろん、歌の合同発表会や体育の交流、まとめのスピーチ発表会などの学習場面において他校との交流もたくさんできて、より学びが深まると思います。彦根市のバスを小学生、中学生にも使わせてもらうことは可能でしょうか。伺います。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 総務部長。

○総務部長（和気豊文さん） 彦根市の公用バスを利用できれば、お金をかけずに校外学習の機会をもっと増やせるというご質問をいただきましたので、お答えをいたします。

おっしゃるように、彦根市には公用バス、いわゆるマイクロバスが2台ございまして、彦根市の関係する事業などに使用をしております。

バスを運行することにつきましては彦根市の税金が使われておりまして、学校からバス会社にバスを頼む場合、バスの大きさによりまして金額は異なると思いますが、彦根市の公用マイクロバスを使う場合にもお金がかかるということを、まずはお伝えをしておきたいと思います。

さて、彦根市の公用バスでございますが、2台ございまして、それぞれ、運転手さんを除いて28人乗りとなっておりますので、2台で最大56人の乗車が可能でございます。

す。このため、小学校や中学校における校外学習での利用となりますと、この56人より少ない学校ですと2台のバスで乗れるわけですが、人数の多い学校については、公用バスだけでは乗れない、足りないということになります。

また、ほかに市の事業と学校の校外学習の日程が重なった場合とか、ある学校と別の学校の校外学習が同じ日に重なった場合など、利用できない学校が出てくる場合がございます。そうした学校は、バス会社に別のバスをお頼みになられるということになろうかと思えます。

つまり、人数や日程によっては校外学習に公用バスを利用できる学校と利用できない学校ができてしましまして、利用するバスについて、小・中学生の皆さんの学習の機会が、学校によっては公平でなくなってしまう。

さらに、公用バスを使用することにつきましては、ちょっと難しいですが、彦根市公用マイクロバス使用規程というルールがございます。バスを使用するときに必要なことを定めております。その中で、「バスは、市の関係事業、会議等において、乗車人員が10人以上および県内の運行に限る場合に使用できる」としてあります。このルールを決めるときに、校外学習などの学校行事は市の関係する事業の範疇に想定をしておりませんでしたので、今のルールの上ではバスの使用はできないということになります。

こうしたこともありまして、現在までのところでは、公用バスを校外学習などの学校行事で利用していただいたことはございませんが、例えば、彦根市の教育委員会が主催する事業に小・中学生が参加されるような場合には使用できるということも考えられます。そうした場合に公用マイクロバスを利用していただくことを可能とするかどうかということ、今後、市の教育委員会事務局の皆さんとともに私たち担当部局と検討をしたいと考えていますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 中嶋さん。

○17番（中嶋亜美さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 18番徳田優実さん。徳田さん。

○18番（徳田優実さん） 「土曜日に授業をしたらどうですか」

土曜日に授業がなくなってから、私たち子どもたちの学力が昔と比べて下がったとおばあちゃんに聞きました。それに、スキー教室などの行事がなくなってしまいました。だから、土曜日に授業をして少しでも学力を上げたり、スキー教室などの行事を復活させたりしたいと思っています。また友達と遊ぶ時間が増え、友達とより仲よくなれます。

土曜日に学校に行って勉強するのが嫌という人もいると思うので、1週間おきに授業をしたりしたらいいと思います。土曜日を利用して、なくなった行事をしたり、さらに行事を増やしたり、体力づくりをしていったらいいと思います。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 学校が土曜日、完全に休みになったのは平成14年度か

らで、今年で14年目になりました。

土曜日が休みになった理由ですが、平成元年ごろから、多くの会社が土曜日、日曜日は休みになってきました。土曜日と日曜日には、子どもたちに家庭や地域で家族や地域の方々とたくさん交流してもらい、さまざまな活動を通して、多くのことを学んでもらおうということから休みになったものです。

今では、土曜日、日曜日には各地で特色ある行事やイベント、スポーツ少年団の活動などが行われるようになりました。教育委員会でも子ども科学教室などのイベントを計画し、たくさんの参加者があります。

さらに、各学校でも土曜日に、親子活動や、中学校では資源回収活動を生徒と保護者の方が一緒に行うなど、授業以外の多くの活動を行っています。徳田さんも土曜日、日曜日に彦根市や町内の行事などに参加され、いろいろな経験をされているのではないのでしょうか。

また、彦根市では、徳田さんが言っていたように、学力の向上も目指しています。ただ、社会が求めている学力は昔と比べて変化しています。今は習ったことを覚えるだけでなく、自分で課題を見つけて自分で解決する力が求められていて、その力をつけるためには、自らさまざまなことに興味を持って取り組み、活動し、体験することも重要になります。

このようなことから、子どもたちには学校以外の場でさまざまな活動ができるよう、土曜日、日曜日の休みをできるだけ活用してもらいたいと考えていますが、今後、土曜日の学習機会がさらに充実するように工夫していく際に、徳田さんの意見を参考にしていきたいと思っています。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 徳田さん。

○18番（徳田優実さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 19番溝口真唯子さん。溝口さん。

○19番（溝口真唯子さん） 「歩行者のことを考え、安全に運転してもらうには」

私の家の近くの道路は、小・中・高校生や畑に行かれるお年寄りの方たちが朝通ります。そのときに、会社に通勤している人たちがいて、制限速度よりもかなり速い速度で走っています。そして、携帯電話や音楽を聞いていて、私は、ほんとうに前を見て運転しているのかなと思ったことが何度もあります。

先日、家の前で携帯を見ていて、お店の前にあるガードレールにぶつかる事故がありました。2学期から、車がたくさん通る通学路の片側にグリーンベルトが引かれています。しかし、速く走っている車や携帯を見て運転している人がいると、グリーンベルトの意味がないと思います。

今は、月に2、3回、地域の方や学校の先生方が通学のときに安全パトロールをしてくださっていますが、車の速度は変わらず、速くて危ないです。なので、車を運転している

人にも、自分中心ではなく、歩行者が歩いているという意識を持って、安全に運転してもらうための対策は十分でしょうか。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） 彦根市では、歩行者の安全性を高める対策としまして、小学校の通学路を対象に、通学路の合同点検を行っています。これは、各小学校から提出された通学路の危険箇所を示した報告書をもとに、市の職員、学校の先生や彦根警察署員が現地調査の上、安全対策を検討し、主に横断歩道の着色やグリーンベルトの設置などを行っています。溝口さんが目にされたグリーンベルトも、この対策で行ったものであります。ドライバーが通学路であることを一目で理解し、歩行者に対し十分配慮して車を走行していただくことを目的としています。

さらに、このように安全対策を行った箇所についても、対策後の効果を検証し、より一層安全な通学路となるよう検討を重ねています。

しかしながら、溝口さんが指摘されるように、交通ルールやマナーを守らないドライバーが多いのも事実であり、道路の整備だけでなく、一人ひとりが交通ルールを守り、交通安全の意識を高めていただくことも重要であると考えています。

そのため、本市では、彦根警察署やボランティアで活動いただいている彦根交通安全協会の皆さんたちと連携し、交通ルールの遵守や、歩行者の保護など運転マナーの向上のための街頭啓発や、会社などを訪問し、社員の皆さんに交通安全の呼びかけをお願いするなど、さまざまな活動を行っています。

また、交通安全の取り組みについて彦根警察署にお尋ねしたところ、免許更新時における安全運転講習の実施や、悪質な運転者を排除するために積極的に交通取り締まりを行うなどにより、道路の安全の向上に努力しているとのことでありました。

こうした取り組みにより、彦根警察署管内での交通事故件数も減少している状況となっており、今後も、道路の安全対策とあわせ、交通安全の啓発活動をより一層推進し、歩行者の安全確保に努めてまいりたいと考えています。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 溝口さん。

○19番（溝口真唯子さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 20番出口遥楓さん。出口さん。

○20番（出口遥楓さん） 「より安全に通学できるように子ども目線のカーブミラーを」

私たちは毎日、学校へ通学しています。トラックなど車がよく通る道を歩いています。そのとき危ないことがあります。なので、次のことを提案します。

まず、安全に歩けるように、道にカーブミラーをつけてほしいです。特に、小学生などの目線では見にくいので、小さい子の目線に合わせて考えてほしいです。

また、点滅信号はそのままスピードを落とさず走っていく人がいて危険なので、普通の

信号にしてほしいです。なぜなら、鳥居本町はたくさんの大型トラックが通っていて危険です。見通しの余りよくない場所で、さらにカーブミラーが汚れたり、緑色のコケのようなものがついているものもあり、とても見にくくて危険です。

また、大人目線では見えていても、子ども目線では見えないことがあります。同じクラスの班長さんは、「トラックなどが来ているかわからなくてカーブミラーを見るけど、見にくくて道に出ないとわからない」と言っています。なので、つけてほしいです。

また、点滅信号のところは通学路になっていて、スピードを落とさず走っていく車があり、横断歩道もなく危ないので、普通の信号にしてほしいです。

私たちが気をつけるので、より安全な通学路にしてください。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） まず、「小さい子の目線に合わせたカーブミラーを考えてほしい」についてお答えします。

カーブミラーは、見通しの悪い交差点などで、ドライバーが直接見ることができない車や歩行者の存在を確認するために、大人目線というより、ドライバー目線で設置されているものであることをご理解いただきたいと思います。

したがって、道に出ないと車が来ているかわからないと言われている場所につきましても、子ども目線でのカーブミラーの設置は難しいと考えていますので、出口さんをはじめ皆様には、交差点や大きな通りに出られる場合は、一たん立ちどまっていただき、自分の目でしっかり左右の安全確認をされるよう、改めてお願いをしたいと思います。

次に、点滅信号を普通の信号にとの要望につきましては、信号機を設置・管理する彦根警察署に確認しましたところ、点滅信号と普通の信号は、車の通行量、道路の幅などに応じて使い分けており、現状では普通の信号機への変更は困難との回答でありました。

しかしながら、点滅信号には一時停止や徐行などの交通規制が伴っているため、交通違反車両等への監視強化に努められると伺っています。

最後になりますが、出口からさんご指摘いただきました、汚れて見にくいカーブミラーにつきましては、既に現地確認を行っており、近々取りかえを行う予定であります。

今後におきましても、皆様からさまざまなご意見をいただき、学校、地域、関係機関が連携し、安全な通学路の確保を目指していきますので、ご協力よろしくお願いをします。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 出口さん。

○20番（出口遥楓さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 21番馬場宥透さん。馬場さん。

○21番（馬場宥透さん） 「大きくて新しい図書館を」

僕は本が好きで、よく図書館を利用します。本がたくさんあって、知りたいことを調べられて、とても便利に感じています。それでも、時々、不便に感じることもあります。それは、読むときに本の世界に入り込めるような読書スペースが本棚から離れた場所がない

ことや、図書館が暗くて雰囲気暗いということ、雨の日にぬれた靴で床を歩くとキュッキュッと行って、うるさくて本に集中できないということです。

僕は、今までに多賀町立図書館や福井の図書館に行ったことがあります。そこは、床がカーペットだったり、本を読むためのスペースがあり、図書館も明るく広がったです。

昨年にも同じような提案がありました。その答弁の中で、「誰もが使いやすい、魅力のある図書館になるように努めていきたい」とありました。しかし、僕はよく図書館に行きますが、変わったようには感じられません。ですから、ぜひ図書館を広く新しくしてください。よろしくお願いします。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 馬場さんも本が好きで図書館に何回も通っているということで、大変素晴らしいことだと思います。今日は、塩谷さんや中山さんも図書館についてご質問をいただきました。馬場さんも含めて、多くの人たちが図書館について興味を持って、いろんなことを考えていてくれることを心強く思っています。

先ほども教育部長がご答弁しましたが、今の図書館は昭和54年に建てられて、もう36年がたっています。馬場さんがご指摘をいただいたように、新しい図書館と比べると、使い勝手が悪かったり、暗かったり、床が音がしたりということで、少し見劣りするのではないかと、そのとおりだと思います。

ただ、この彦根の市立図書館というのが生まれて、来年でもう100年たつわけです。その100年という記念の年になるわけですが、古い図書館ですので、蔵書数、本がある数ですね、76万冊を超えておられます。これは県下で4番目に多いという大変由緒ある図書館で、古い資料も随分あると言われていています。

ただ、今の図書館だけで十分かということになりますと、そうではなくて、しっかりと新しい図書館も必要だと思っております。今、いろんな方々のご意見を伺いながら、検討を進めているところです。

新しい図書館を建設する際には、ご指摘をいただいたような読書スペースを十分確保することや、館内の明るさ、床の工夫、本棚の工夫も含めて、馬場さんからいただいたご意見も参考にしながら、より環境の整った図書館にしていきたいと考えております。

今後も、今ある図書館、大変歴史のある図書館です、これも大切に工夫をしながら守り続けて、同時に、新しい図書館整備に向けて進めていきたいと思っておりますので、ご理解のほどお願いいたします。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 馬場さん。

○21番（馬場宥透さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

○第3グループ議長（中山さつきさん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第8回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前 11 時 29 分閉会

会議録署名議員

第 1 グループ議長	馬 場 宥 透
第 2 グループ議長	小 椋 唯 人
第 3 グループ議長	中 山 さつき
議 員	谷 口 純 大
議 員	藤 岡 恭 演
議 員	高 谷 英里菜
議 員	川 端 智 大